

平成26年度

学校自己点検・評価報告書

平成27年9月

筑波研究学園専門学校  
自己点検・評価委員会

## ■平成26年度 学校自己点検・評価について

筑波研究学園専門学校は、「工業分野」、「商業実務分野」、「教育・社会福祉分野」の3つの専門課程の認可を受け、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的として運営しております。

平成19年12月に学校教育法が改正され、4年制大学や短期大学と並んで専門学校においても学校評価制度が義務付けられました。本校では、平成18年度に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成19年度より「自己点検・評価」を実施してきました。また、平成26年度からは文部科学省の職業実践専門課程の認定を受けたことを踏まえ、一層の「学校運営の適正化」と「教育内容の充実」を図ることを目指しております。

### 1. 対象期間

平成26年4月1日～平成27年3月31日

- 委員会開催 第1回 7月10日(金) 17:30～18:30
- 第2回 7月15日(水) 17:00～18:00
- 第3回 8月4日(水) 17:30～18:30
- 第4回 9月2日(水) 17:30～18:00
- 第5回 9月8日(火) 8:30～9:30
- 第6回 10月13日(火) 17:15～18:30

### 2. 実施方法

(1) 実施組織：自己点検・評価委員会

- 委員長 柿崎 明人 筑波研究学園専門学校 学校長
- 委員 鈴木 一男 筑波研究学園専門学校 電子機械工学科長
- 伊能 正登 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
- 大野 克典 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
- 水越 武 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長
- 横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
- 大森 淳子 筑波研究学園専門学校 幼児保育学科長
- 野口 孝之 筑波研究学園専門学校 教務・学生部長
- 赤羽根隆之 筑波研究学園専門学校 企画部長
- 檜山 直己 筑波研究学園専門学校 入学広報部長
- 葛綿 賢二 筑波研究学園専門学校 進路情報部長
- 田邊 寛 筑波研究学園専門学校 事務部長
- 志賀 宏 学校法人筑波研究学園 法人事務局長

- (2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠。
- (3) 評価方法：授業アンケート、教員自己点検・評価、各学科及び部門の自己点検・評価をもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取りまとめる。

### 3. 評価の項目

次の11項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流（任意）

### 4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の4段階で点数評価しました。  
4：適切    3：ほぼ適切    2：やや不適切    1：不適切
- (2) それぞれの評価項目に対する状況と課題、対策についても報告いたします。

## 1. 教育理念・目標

No	設問	評価点			
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
2	専門分野における職業教育の特色は明確か	4	3	2	1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 学校の理念・目標・育成人材像は、学則第一条において定められている。  
「工業、商業実務、教育・社会福祉分野の専門教育を施すことにより、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな有為な人材を育成し、もって地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする（学則第一条）」
- 2 各専門分野の職業教育は、学校の職業教育の特色「産学協同」の考え方に基づいており関連機関との教育連携を通して実践的な人材を育成することを特色としている。
- 3 社会経済の状況と見通し地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。  
現在、「専門職大学」創設に向けた構想が打ち出されており、各部門、学科ではその移行を念頭に置いて体制の整備を行っている。
- 4 学校の理念は、入学前の合格者説明会（合格者・保護者対象）、入学後の学生オリエンテーション及び保護者会を実施し、周知を図るとともに詳細を記載している学生便覧を配布している。また、学校の教育活動や将来構想等は機関誌（年4回発行）に掲載し、在校生に配布するとともに、保護者にも送付している。なお、学校のホームページ等においても情報を公開している。
- 5 学科では業界ニーズを反映した育成人材像や教育課程を設定している。関連業界との連携状況は学科の特性により大きく異なっている。

### 【今後の改善方策】

- 3 職業実践専門課程の一層の充実を図るとともに、平成31年度開設の「専門職大学」に向けた準備を開始する。将来構想の実現に向けて、各学科・部門は具体的な設計を進めていく。
- 5 各学科では、業界ニーズを的確に捉え、教育目標や育成人材像に反映させられるよう関連業界との連携を深めていく。

## 2. 学校運営

No	設問	評価点			
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 学校の運営方針や事業計画は、学校の理念や将来構想、教育活動の実績を踏まえ策定し理事会・評議員会において承認を得ている。
- 2・3 学校の運営組織は理事会・評議員会で承認を得るとともに学生便覧等にも記載し、教職員、学生とも周知を図っている。意思決定は決裁制度が定着し適正に機能している。
- 4 人事、給与に関する規程等は整備され教職員が必要時に閲覧可能な状態であるが、十分に周知されていない。
- 5 教務・財務ともそれぞれの組織体制、意志決定の流れは明確である。
- 6 業界や企業等との関係は密接な連携や求人採用等を通じた関係強化、社会規範の遵守を心掛けている。地域との関係は、学園祭等で良好な関係を築いているものの、登下校時の自動車運転マナーが課題となっている。
- 7 本校の教育活動に関する情報公開は、ホームページや広報誌等で行っている。
- 8 本校では、早い時期から業務の情報システム化を図ってきた。現在、現行システムの老朽化に伴い新システムの導入を計画している。

### 【今後の改善方策】

- 4 人事、給与面の規程ばかりでなく閲覧可能な規程等は保管場所の周知を徹底する。
- 6 自動車運転マナーの指導は、現在実施している土浦警察署による交通安全講話、教職員による登校指導を今後とも継続していくとともに、法令遵守の指導を合わせて行っていく。
- 8 現在、新システム導入に向けた検討を進めており、平成28年度からの運用に向けた具体的な作業工程を計画している。

### 3. 教育活動

No	設問	評価点			
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	4	3	2	1
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	4	3	2	1

#### 【状況と課題】

- 1 各専門分野の教育課程は学校の教育理念に沿って編成されている。また、各専門分野を担当する学科においては、事業計画に基づき実施方針を明確にしている。
- 2 学科では、教育到達レベルにあわせた標準的なカリキュラムを編成している。必要に応じて課外学習を実施しているが、学習進度が遅れがちな学生に対する指導体制の充実が望まれる。
- 3・5 学科のカリキュラムは体系的に編成されている。また、年2回開催している教育課程編成委員会等からの提言を受け、カリキュラムの見直し等を随時実施している。
- 4・6 学科では、外部実習や外部講師による演習授業を導入し職業教育の充実を図っている。導入方法、実績は学科により異なることから学校全体の標準化と実績管理が求められる。
- 7 学校では、学生からの授業改善アンケートをもとに授業総括を年2回実施している。授業見学や研究授業は実施しているものの、学科により状況は異なる。
- 8 教育課程編成委員会等の外部関係者からは、学校や学科に対する様々な意見が出されており、それらの意見を精査しどのように反映させるかが課題となっている。
- 9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確で、省庁の認定学科においては定められた基準を遵守している。
- 10 学科では資格取得の指導体制、目標資格等に対するカリキュラムを体系的に構築している。また、放課後や休業期間中に対策授業等を実施し、実績向上に繋げている。
- 11・12 本校の教員体制は、省庁や検定協会などの認定要件を満たしている。しかし人材育成目標の達成という視点から、業界等との連携を一層強化した教育活動の充実が求められている。

- 1 3・1 4 教職員研修は年1回テーマを設定し実施、個々の自己研修は学科や個人の主体的な取り組みに委ねてきた。27年度からは、学校及び学科で研修計画を立て、先端的な知識・技能等の修得、教員の指導力育成を組織的に行えるよう整備を進めてきた。

**【今後の改善方策】**

- 2 学習進度が遅れがちな学生への補習を対象とした課外学習等の指導体制を検討する。また、教育方法の工夫・開発、指導方法については教員の個人レベルではなく、常勤・非常勤教員も含め学科単位での情報共有、レベルアップを図る。
- 4・6 キャリア教育・職業教育を一層充実させていくためにも、学科が卒業生の勤務する企業等と連携していくことが大切である。また、職業教育を体系的に位置付けていくためにも学校全体の標準化と実績管理を進めていく。
- 7 27年度からは授業改善アンケートの集計・分析するシステム導入を予定。教員相互の授業見学、研究授業を活性化し授業方法の研究と改善を図っていく。
- 8 外部関係者からの意見をもとに、導入できるものは次期以降の教育活動へ繋げられるよう検討する。
- 1 1・1 2 人材育成目標の達成に向けては、教員一人ひとりが自ら自己研鑽に努めると共に、業界等との連携強化に取り組み、そこで得られた知識を教育活動にフィードバックすることで人材育成の充実を図っていく。
- 1 3・1 4 教員としての研修は学校・学科として組織的に行われることが重要であり、関連機関との連携による先端的な研修、教材開発、指導力向上等を図る。

#### 4. 学修成果

No	設問	評価点			
1	就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
2	資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
3	退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

##### 【状況と課題】

- 1 就職率は毎年97～99%台を推移している。
- 2 全学科で目標資格を明確に設定しており、取得時期に合わせたカリキュラムを構築している。また、課外授業として資格取得に向けた特別講座等を実施している。
- 3 学科では、欠席が多い学生に対し早い時期から保護者と連携して対応している。また、中途退学者の低減に向けて学科・部門間で連携体制をとっている。
- 4 卒業生の勤務先企業等との交流がある学科では卒業生の把握は出来ているが、学校全体では十分と言えない。在校生の状況は担任が把握しており必要に応じて校務会議にて報告がある。
- 5 卒業生の勤務先企業等と交流がある学科では、企業等からの意見聴取によりキャリア教育の改善に繋がっている。学校全体でのキャリア教育を進めていくためにも、各学科と卒業生の勤務先企業等（学科特有の業界）との交流が必要である。

##### 【今後の改善方策】

- 4・5 学科では、卒業生の勤務先企業等（学科特有の業界）と直接的に交流する機会を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく。また、教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。

## 5. 学生支援

No	設問	評価点			
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
7	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
8	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 進路・就職に関する窓口を設置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のための応接室等を備えている。求人情報、進学情報は見やすく管理されており閲覧可能な状態である。
- 2 学生相談に関する体制は、クラス担任を中心に学科及び各部門により支援している。最近の傾向として、メンタル面で問題を抱える学生も多く対応に苦慮するケースが見られる。
- 3 学生支援機構をはじめとした公的支援制度の他、学校独自の奨学金制度、学費減免・分割納付制度について窓口を設置し適切に対応している。また、大規模災害発生時及び家計急変時等についても個別に対応している。
- 4 事務部と学校医との連携等、学生の健康管理を担う組織体制は、専門学校設置基準等に定められた範囲で対応している。今後は、多様化する学生の対応方法の検討も必要である。
- 5 部活動に関する規約、補助制度等を整備している。
- 6 生活環境の支援として、学内施設では談話スペースや学生食堂等を設置している。また、一人暮らしの学生には寮の提供、近隣アパートの業者紹介を行っている。公共交通機関を利用する学生にはスクールバス運行支援を行っている。
- 7 保護者会（五籃会）が組織されていて連携は十分に機能している。また、保護者会総会や役員会の定期開催、機関紙の送付等も行っている。学生指導面においては、担任が保護者との連携を図り、状況に応じて学科長や教務部が関わることもある。
- 8 卒業生への支援体制として、全学的組織（輝峰同窓会）があり、同窓会名簿の無料送付を行っている。卒業後のキャリアアップ、研究活動支援については一部の学科に留まっている。
- 9 社会人経験者については募集要項や入学前の履修に関する規程は学則で整備されており受入実績はある。しかし、社会人学生向けの長期履修制度等は現時点で導入はしていない。
- 10 分野別ガイダンス及び模擬授業等は全学科で実施している。また、公立高校との高専連携による出前授業(情報・自動車整備・公務員等)を実施している。

### 【今後の改善方策】

- 2・4 学生相談においてメンタル面で問題を抱える学生への対応については、担任・学科、部門との連携により対応していく。また、必要に応じて学校医や専門機関とも連携していく。
- 8 卒業後のキャリアアップ、研究活動支援は実施していないものの、卒業後の再学習や進路相談などは各学科において個別にフォローしている。
- 9 現時点では、社会人学生向けの長期履修制度等の導入は予定していない。今後、社会的なニーズも考えられることから長期的な検討課題としていきたい。

## 6. 教育環境

No	設問	評価点			
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 各学科の専門教育に必要な施設・設備は指定基準を満たしており、補修・入れ替え等を計画的に実施している。専門学校を設置基準には含まれないが、新たな検討課題として、図書室の設置、バリアフリーへの対応があげられる。
- 2 学外実習やインターンシップ、外部講師による学内実習等の教育体制は、それぞれの専門分野の特性に応じて各学科で整備している。また、各学科では職業教育を一層充実させるための新たな連携体制を整備中である。なお、現在、海外研修等は実施していない。
- 3 土浦消防署の指導の下、年次消防計画・防災組織等を整備し、全校（学生・教職員）一斉避難訓練を毎年実施している。なお、施設の耐震化は法令の定める基準をクリアしているが、各演習室においては設備の転倒防止等、定期的な点検、整備が必要である。

### 【今後の改善方策】

- 1 建築後の経過年数の長い1号館等、特に水回り関連は最近頻繁に故障が発生していることから全面的な補修を行う予定。また、図書室の設置、バリアフリーへの対応については専門職大学の設置基準を想定して長期整備計画のなかに盛り込んでいく。
- 3 各演習室においては設備の転倒防止等、定期的に点検・整備を行っていく。また、現場レベルにおいても安全管理を徹底する。

## 7. 学生の受け入れ募集

No	設問	評価点			
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 学生募集に関する情報管理、分析、募集戦略策定、推進等の基本的なフローが構築されている。入学選考基準は、規程等で明確に定めており、入学選考の公平性を確保するための合否判定体制や情報管理等のチェック体制が整備されている。
- 2 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介しており、高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供も行われている。
- 3 学納金及び学納金等徴収する金額はすべて明示しており妥当なものといえる。また、入学辞退者の授業料返還については、文部科学省通知の趣旨に基づき適正に取扱っている。

## 8. 財務

No	設問	評価点			
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 学校の財務基盤は安定している。今後も財務基盤を安定させていくためには、一定以上の入学者確保、退学者の低減に努めていくことが重要である。
- 2 予算・収支計画についても妥当なものであり、今後も経費節減に努めていく。
- 3 公認会計士による日常的相談体制等、法に定められた以上の対応を実施している。
- 4 ホームページへの公開ほか希望者への閲覧体制を整えている。

### 【今後の改善方策】

- 1 財務基盤を安定させていくためには、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかなくはならないことを全教職員の共通理解とする。特に退学者の低減については財務基盤としての視点だけでなく、学生の将来に関わる重要な問題として取り扱う。

## 9. 法令等の遵守

No	設問	評価点			
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
4	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいた学校法人運営、学校運営を行っている。また、監督官庁である茨城県総務部総務課私学振興室への届出は遅滞なく実施している。
- 2 個人情報保護に関する対策は、法律に則り学内情報の管理を実施しており、教職員による学生個人情報の扱いについても同様である。学生に対しては、昨今のネット上でのトラブルが社会問題化していることから何らかの対策を講じる必要がある。
- 3 自己評価の実施に必要な規則や組織体制も整い、評価結果も報告書に取りまとめている。評価結果の分析や課題点の明確化、これらを学校改善に繋げていくための取り組みが今後の課題である。
- 4 評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。

### 【今後の改善方策】

- 2 法令遵守や個人情報保護の体制を維持・向上させるため、教職員や学生に対しての啓発及び研修・教育を実施していく。また、マイナンバー制度の導入に備え、新たに規程の整備、担当者の設置、システムの整備等に取り組む予定である。

## 10. 社会貢献・地域貢献

No	設問	評価点			
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 本校では、検定試験会場や各種団体への施設貸し出しの他、産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備し、行政や各種団体と研究活動を実践している。
- 2 本校では、学生のボランティア活動を奨励し、専門分野ごとに支援体制を整備している。活動状況及び実績は校務会議等の議事録に記載し学内での共有を図っているが、学生の参加状況は学科の特性により大きく異なっている。
- 3 ハローワークが行う「公共職業訓練」講座を常時開講し受講生の就職活動を支援している。

### 【今後の改善方策】

- 2 ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられる。今後は、それぞれの専門分野に関わりあるボランティアを奨励、支援できるよう各学科での体制を整えていく。

## 11. 国際交流（任意）

No	設問	評価点			
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1

### 【状況と課題】

- 1 現在、T I S Tにおいては、留学生に関して入学者の選別を適切に行うことが困難であることから、積極的な受け入れは行っていない。

### 【今後の改善方策】

- 1 現在文科省で検討中の「専門職大学」設立時に、関連機関等との連携も視野にいれて留学生の計画的な受け入れを検討していく予定である。